

あおば 社協 だより

2023
3月号



「あおば社協だより」は、横浜市青葉区社会福祉協議会（以下、青葉区社協）が実施している事業やイベントのお知らせ、報告等、青葉区内の地域福祉に関する情報を掲載しています。

社会福祉法人 横浜市青葉区社会福祉協議会
ホームページ <http://aosha.jp/>

青葉区社協

検索

Instagram やってます！

住み慣れた地域で 自分らしく生きる

青葉区において、長年ボランティアとして活躍されているお二人をご紹介します。活動を始めたきっかけ、活動を通じて得られた経験や地域への思いをうかがいました。

とよさきとも こ

豊崎智子さん（谷本地区）

「みんながこの地域にいてよかったと思える地域に」

Q 地域でボランティア活動を始めたきっかけは何ですか？

A 50代後半に青葉区へ引っ越ししてきました。引っ越ししてきて早々、「民生委員をやってみないか」と声をかけられたことがきっかけです。

Q “カエデの会”について教えてください。

A 民生委員として活動をしていたときに「高齢者が集まれる場所を作してほしい」という声があり、当時地区にはそのような場所が無かったことから、平成17年11月に高齢者サロン“カエデの会”を発足しました。今年で18年目を迎えます。会の名前の由来は、発足時の11月に見た紅葉から。漢字だとありきたりだと思い、親しみやすさをこめて、カタカナの「カエデ」にしました。現在、参加者12名余り、スタッフ11名ほどで活動しています。感染症拡大の影響で活動を縮小していましたが、令和5年4月からは食事の提供を再開し、以前の形に戻す予定にしています。



Q 地域活動をされているなかで、大切にされていることはありますか？

A 誰かの笑顔が見られたり、役に立てたと感じることが支えになっています。自分自身、負担なく楽しんで活動できることを幸せに思っています。ボランティア活動はみんなの気持ちが一になること。和気あいあいと楽しくないと長続きはしません。お互いに相手を思いやる気持ちを大切にしながら、活動することを心がけています。

Q 将来、どんな地域になってほしいですか？

A 「この地域に住んで良かった」と思える地域、特に高齢者には「今までこの地域で過ごせて良かった」と思ってもらいたいです。子どもから高齢者まで、住んでいて心地よい地域、温かいまなざし溢れる優しい街を目指し、活動を通して地域全体を巻き込んでゆきたいですね。地域全体が良くなるためには、一人では何もできません。多くの方たちと力を合わせる活動が求められます。一緒に活動する仲間を増やしていきたいです。



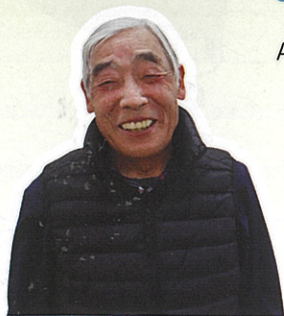
おおはらよし お

大原義男さん（すすき野地区）

「地域に貢献できることが幸せ」

Q 地域でボランティア活動を始めたきっかけは何ですか？

A 会社員時代に、妻に声をかけられて、スポーツ推進委員になったことが地域に関わるようになったきっかけです。始めた当時は、地域のことは何も知りませんでした。男性は、定年退職した後、どう過ごすか悩む人も多いと聞きます。自分はスムーズに地域に入ることができました。地域に関わり貢献していけることは、とても幸せなことだと思います。



Q “学援隊”について、教えてください。

A 平成19年から、すすき野小（当時）の学援隊として、活動を開始しました。現在も、嶮山小で通学路の旗振りをしています。毎朝子どもたちと挨拶を交わすことで脳も活性化されます。学援隊の活動の他にも、通学路の落葉清掃や草刈りといった環境整備にも日々取り組んでいます。



Q 地域活動をされているなかで意識されていることはありますか？

A 気になることがあれば、自ずから動くようにしています。自分の背中を見て、周りの方に影響を与えられたらいいと考えています。学援隊のボランティアは、新しい担い手を見つけることが難しいです。

Q 地域活動をされていて嬉しいこと、嬉しかったことはありますか？

A 児童が毎日元気に通学している姿を見ていると嬉しい気持ちになります。また、すすき野小が閉校になった際に、校長先生から感謝状を頂いたときはとても嬉しかったです。

Q 将来、どんな地域になってほしいですか？

A 少子高齢化が進むなかで、外に出て交流できる場所ができたかと思っています。ベビーカーを押している方を見かけた際は、「大切に育ててください」と声をかけています。それは、子どもは“地域の宝”だと思っているからです。お父さん、お母さんが地域で孤立しないように、ちょっとした声かけをすることで、皆が繋がれたらと思います。



募金ご協力ありがとうございます

赤い羽根募金、年末たすけあい募金、日本赤十字募金に、ご協力ありがとうございました。お寄せいただきました募金は、区内の福祉保健活動団体への助成等や日本赤十字社の活動に役立させていただきます。



共同募金 PR 大使
オグロワラビー
「オハナ」



街頭募金の様子

募金実績
令和5年3月20日現在

赤い羽根募金 18,358,511 円
年末たすけあい募金 17,692,479 円
日本赤十字募金 15,430,901 円

インタビュー

「えがお・あおば」

青葉区社協では、障害福祉の理解啓発に取り組んでいます。「インタビュー えがお・あおば」では、区内施設・団体で活動している障害のある方々への取材を通じて、普段の様子や声をご紹介します。

※協力：本会当事者団体部会・障害者施設連絡会

06 NPO 法人横浜市中途障害者地域活動センター 青葉の風

活動センターでは、脳血管疾患等の後遺症による在宅の障害者が、創作・軽作業や生活機能訓練および地域交流などを通じて、地域社会で障害者の仲間や地域の人々と共に、自立した生活を目指して自主的に活動することを目的としています。今回は、3月末に青葉の風を卒業される谷木謙介さんにお話を伺いました。



谷
木
謙
介

Q 「青葉の風」ではどんなことをして過ごしていますか？

A 刺し子やボールペン習字、パソコンで月間のスケジュール作成をしています。裁縫は得意なので、刺し子は利き手でない左手でも結構上手にできています。

Q 趣味・特技はなんですか？

A 自宅でメジャーリーグを観戦しています。テニスで体を動かすことも好きです。卒業後はショートスキーに挑戦したいと思っています。

Q 日常生活で困っていることはありますか？

A しいて言えば、料理が難しいです。子どもが小さい時から料理はしていたのですが、右手が不自由になり包丁の扱いが難しくなりました。でも、左手だけで卵を割るなどできることも増えました。

Q 青葉の風が設立 20 周年ですがPRしたいことはありますか？

A ぜひ、100 周年まで武藤所長には頑張ってほしいです（笑）。自分も 11 年通ったので、長く通える場所として、いつまでも続いてほしいです。



元々右利きだった谷木さん。左手で文字を書く練習をされたそうです。取材時、左手でお名前を書いていただきました。

谷木さんは、皆を引っ張る力があり、ご意見番のような方です。OBとして青葉の風に関わっていただけたら嬉しいと思っています。



青葉の風 武藤所長

(取材者から一言)

発症後もリハビリを続け、休日には趣味のスポーツを楽しんでいる谷木さん。

努力を惜しまない姿が、利用者・職員の皆さんから信頼されている方だと感じました。



施設・団体情報

施設名：NPO法人横浜市中途障害者活動センター 青葉の風
所在地：〒225-0024 青葉区市ケ尾町 1170-4 スティルズ 1 階
連絡先：045-972-6751
ホームページ <http://aobanokaze.web.fc2.com/>

ご寄付いただきありがとうございます。

(2023年1月1日～2023年2月28日 寄付者ご芳名)

株式会社朝日様/株式会社三菱UFJ銀行様/若松屋商事株式会社様/東急多摩田園都市情報連絡会様/伊藤彰彦様/匿名5件 ※順不同・敬称略

社会福祉法人 横浜市青葉区社会福祉協議会

〒225-0024 横浜市青葉区市ケ尾町 1169 番地 22 青葉区福祉保健活動拠点「ふれあい青葉」内
電話 045-972-8836 (代表) 045-972-7018 (ボランティアセンター) 045-479-9111 (移動情報センター)
FAX 045-972-7519
メール info-aoba@yokohamashakyo.jp (代表) URL <http://aosha.jp/>

「あおば社協だより」は、赤い羽根共同募金配分金の一部を活用して発行しています。

